

このバージョンの新機能

このトピックでは、以前のバージョンでは使用できなかった、InfoAsset Manager 2019.2 に新しく導入された追加機能、改良点を全て説明します。

新しい CCTV、人孔調査コーディング規格 - EU2011 をサポート

新しいコーディング規格 EU2011 (Assessment of drains and sewer systems, European Union Standard EN13508-2:2003+A1:2011) が InfoAsset Manager に追加され、CCTV 調査や人孔調査に使用できるようになりました。

InfoAsset Planner インポーターが追加に

InfoAsset Planner からタスクのインポートオプションは、InfoAsset Planner Geodatabase から InfoAsset Manager へと業務発注や調査タスクをインポートしますが、これまでは下水道ネットワークのみに使用可能でした。このオプションが上水道ネットワークや資産ネットワークにも使用できるようになりました。

その他の変更内容としては、以下のものが含まれます：

サブタイプのインポート

以前は、InfoAsset Planner から業務発注や調査タスクタイプのみをインポート可能でしたが、利便性が向上するよう、InfoAsset Planner からタスクのインポートダイアログを使用してサブタイプの情報も InfoAsset Manager へインポートすることが可能となりました。

コンフィギュレーションファイル

InfoAsset Manager と InfoAsset Planner 間における業務発注や調査タスク、サブタスクのマッピング情報は、InfoAsset Planner からタスクをインポートダイアログ内の **Save Config...** ボタンを使用してコンフィギュレーションファイルへ保存できるようになりました。保存されたコンフィギュレーションファイルは、今後のインポートにおいてマッピングを定義する際に使用することが可能です。新しく **Load Config...** ボタンが追加になり、保存されたコンフィギュレーションファイルを読み込む際に選択できるようになりました。コンフィギュレーションファイルの無効なタスクマッピングは、コンフィギュレーションの警告ウィンドウに一覧表示されます。こうした無効なタスクマッピングについては、データのインポート前に手作業でマッピングすることが可能です。

IAP フラグについて

InfoAsset Planner からタスクをインポートダイアログからインポートされた業務データにフラグを設定するオプションが取り除かれました。InfoAsset Planner からインポートされたタスクデータについては、関連するオブジェクトのプロパティシートにて **IAP** フラグが表示されます。

マッピンググリッド

InfoAsset Planner からタスクをインポートダイアログのマッピンググリッド部分は、InfoAsset Planner から出力された業務発注や調査タスクタイプ、サブタイプが InfoAsset Manager に由来していない場合にのみ表示されるようになりました。さらに、グリッド部分を折りたたんだり展開したりするボタンもダイアログ内に追加されるようになりました。

サブタイプをマッピングするため、各業務発注や調査タスクに対して列がダイアログ内のマッピンググリッドセクションに追加されています。最初の2つの列には、InfoAsset Planner の **タイプ** と **サブタイプ** が含まれ、該当する InfoAsset Manager の **タイプ** と **サブタイプ** が隣に表示されます。これまでのバージョンと同様、これらの列を使用して、InfoAsset Planner の業務発注と調査タスクを InfoAsset Manager のタスクへマッピングすることが可能です。InfoAsset Manager の **タスクタイプ** フィールドのドロップダウンリストには、InfoAsset Manager のタスクプロパティを含む、全オブジェクトの一覧が含まれます。選択されたタスクタイプには、定義されたサブタイプが存在しますが、**サブタイプ** ドロップダウンリストにある適用可能なオプションの一覧が含まれます。使用したいサブタイプがこの一覧内に存在しない場合、新しいものを追加することが可能です。

必要に応じて、InfoAsset Manager にて新しいサブタイプを使用可能とすることも可能です。適切な入力設定リストへと追加します。

InfoAsset Manager 64bit 版のリリース

処理能力を向上させるため、InfoAsset Manager の 64bit 版をリリースしました。機能は全て 32bit 版と同じとなっています。

Access データベースからインポートを行うには、Access 2007 以降等、適切な Microsoft 製品、つまり Microsoft Access Database Engine をインストールしておく必要があります。これは、PACP/LACP や MAC P インポーターに影響します。



ショートカットに 64bit と入っているものは、データ表示やインポートにPCの 64bit機能を使用するため、パフォーマンスが良くなります。

調査ビデオの移動がサーバー上で実行可能に

調査ビデオの移動オプションを使用して、クライアント上ではなく、ワークグループデータサーバー上にてビデオファイルの移動が実行可能となりました。これにより、大容量のデータをアップロードする際にクライアントがブロックされることがなくなりました。

さらに、InfoAsset Online のユーザーは、ワークグループデータサーバーを構築して、移動中、あるいは移動後のウェブブラウザへのデータ送信に最適なフォーマットへとビデオを変換することが可能となりました。

InfoAsset Online にてウェブ上にあるビデオの閲覧が可能に

CCTV や人孔調査オブジェクトの **InfoAsset ビデオファイル** フィールド（あるいは、CCTV の **詳細** タブや人孔調査の **その他** タブ）に指定されたビデオのファイルパスが http や https にて始まっている場合、それらのビデオを InfoAsset Online にて閲覧することが可能になりました。詳細については [Migrating Survey Videos](#) をご覧ください。

カスタムグラフのパフォーマンスの改善

グラフプロパティを変更する際のカスタムグラフのパフォーマンスが改善されました。

UK Grid 法を用いたノード名の自動生成機能が改善

以前は、UK National Grid Location に基づいて自動的にノードの名前を生成する場合、各ノード識別子が必ず一意になるよう、ノード ID は 100m²あたり 99 までに制限されていました。この上限が増加し、ノード ID の最後の2つの数字に文字と数字の組み合わせや文字を含めることが可能となり、100m²あたり最大 1295 の一意の識別子を生成できるようになりました。

ArcGIS 10.7 がサポート可能に

InfoAsset Manager にて、ArcGIS Engine や ArcGIS Desktop マップコントロールを選択している場合に ArcGIS v10.7 がサポートされるようになりました。

サポートされているマップコントロールに関する詳細については、[Changing the Current Map Control](#) をご覧ください。

レイアウト管理機能の改善

2つの新規レイアウト、**Factory defaults** と **Factory default InfoAsset Online** がレイアウト管理ダイアログ内の**レイアウトリスト**にて使用可能となりました。これらのレイアウトは未修正のレイアウト、つまり Info Asset Manager や InfoAsset Online のマスターデータベースに含まれる全オブジェクトの出荷時のデフォルト設定から構成されています。**Factory default** や **Factory default InfoAsset Online** の読み込みは、ユーザー定義のローカルレイアウトを全て初期設定にリセットします。マスターデータベースに保存されたレイアウトはリセットされません。

これまでのバージョンで使用可能だったレイアウト管理ダイアログの **Default** レイアウトは削除されました。

オブジェクトプロパティウィンドウ内のコンフィギュレーションメニューが拡張

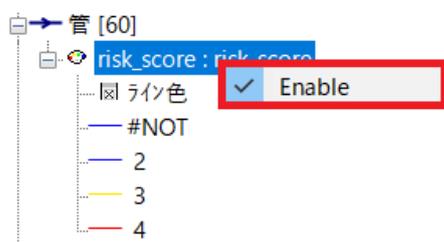
コンフィギュレーションメニューにある **リセット** オプション内にレイアウトをリセット可能な現在のオブジェクト名が含まれるようになりました。また **保存** オプションの名前が **ローカルに保存** へ変更されました。

全てをリセット オプションは削除されました。レイアウト管理ダイアログにある新しいレイアウト、**Factory defaults** や **Factory default InfoAsset Online** を用いると、ユーザー定義のローカルレイアウト全てを出荷時のデフォルト設定レイアウトにリセットできるようになりました。

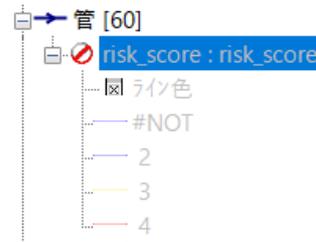
詳しくは [Object Properties Window Toolbar](#) や [Using the Object Properties Window](#) トピックをご覧ください。

テーマキーウィンドウからサブテーマの表示/非表示設定が可能に

テーマキーウィンドウの **Enable** ポップアップメニューを使用してサブテーマの表示/非表示が切り替えられるようになりました。サブテーマを非表示にすると、ジオプラン上にそのサブテーマが表示されなくなります。また、テーマキーウィンドウでは、サブテーマの名前がグレースアウトし、隣に非表示アイコン(🚫)が表示されます。また、サブテーマは、これまで通りレイヤーテーマエディタから表示/非表示を切り替えることも可能です。



テーマキーウィンドウにてテーマを右クリックして表示された Enable オプション。チェックを外すと、無効になります。



テーマキーウィンドウにてテーマを無効にした状態

AutoCAD DWG ファイルのサポート

AutoCAD 2018 及び 2019 DWG形式のファイルからネットワークの更新ができるようになりました。

ジオプラン上のレイヤー並べ替え機能の改善

地図レイヤーの並べ替え機能が改善され、レイヤーがジオプラン上に表示される速度がこれまでより最大で5倍速くなりました。

OPC データソースのサポート終了

Innovyze 製品の SCADAMaster または Infinity System を経由して OPC -準拠 SCADA システムへのデータソース接続を提供する OPC 接続は、時系列データベースのデータソース **タイプ** として使用できなくなりました。結果として新たに Infinity System コンフィギュレーションオブジェクトをデータベースに追加することができなくなりました。しかしながら既存の ISC オブジェクトと関連機能は引き続きサポートされています。



TSDB 機能は、お持ちのライセンスに Suite オプションが付与されている場合のみ使用可能です。お持ちのライセンスへの Suite オプションの追加をご検討される場合には、(株)江守情報のサポートチームにお問合せください。

TSDB に新しいデータソースタイプが追加に

観測データや予測データの新しいデータソースタイプである **FW Format1** が時系列データベースに追加されました。これにより、FloodWorks Data Transfer File Format1 ファイル内の複数のデータストリームを TSDB で使用できるようになりました。このタイプのファイルを含めるには、TSDB の **データソース** タブの **タイプ** フィールドにて **FW Format1** オプションを選択し、必要に応じて他のフィールドを追加入力します。観測タブまたは、予測タブを使用して、データストリームに関する適切な情報を指定し、ファイル内の各ストリームが関連するタブにおいて個別の **ストリーム名** として定義されていることを確認します。

詳細については、[Time Series Database](#) トピックをご覧ください。

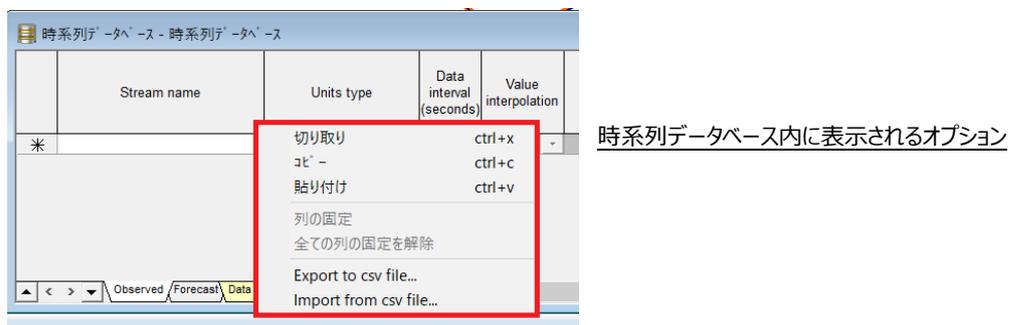
TSDB データグリッドにおいて指定の日付への移動が可能に

時系列データグリッド に新しく **Go to date** ボタンと日付フィールドが追加されました。日付を指定して **Go to**

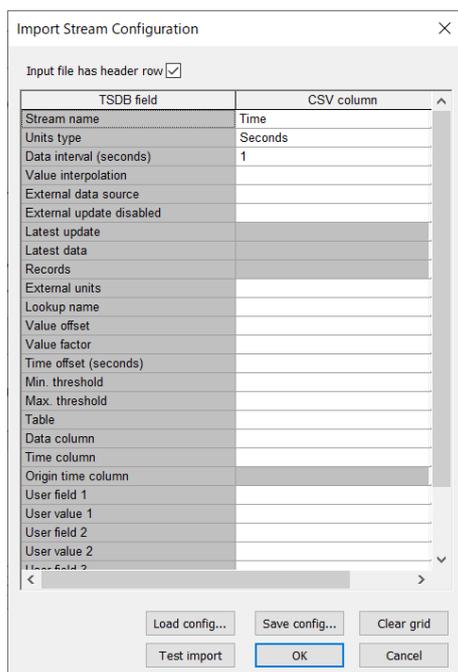
Date ボタンをクリックすると、グリッドの上部で指定した日付の最後のデータポイントが選択されるようになりました。これにより、何百ものデータをスクロールすることなく、必要なデータポイントへすばやく移動することが可能です。

時系列データベースへのデータのインポートとエクスポートが可能に

多くの **時系列データベース** を構築するために必要な時間を短縮できるよう、ストリーム名、単位のタイプ、外部データソース、閾値などの項目を含む、観測または予測ストリームのコンフィギュレーションデータを CSV ファイルからインポートできるようになりました。同様に、コンフィギュレーションデータを TSDB から CSV ファイルへエクスポートできるようになりました。2つの新しいメニューオプション **Export to csv file...** と **Import from csv file...** が、**観測** タブと **予測** タブのヘッダー行を右クリックして表示されるポップアップメニューに追加され、これらのタスクを実行できるようになりました。



コンフィギュレーションデータをインポートすると、新しい **ストリームインポートのコンフィギュレーションダイアログ** が表示され、CSV ファイル内の列を TSDB の観測または予測ストリームのフィールドにマッピングできるようになりました。加えて、これらのマッピングをコンフィギュレーションファイルに保存し、次にコンフィギュレーションデータをインポートする際に必要に応じて繰り返し使用できるようになりました。また、このダイアログでは、時系列データベースに実際にデータをインポートして保存する前に、ストリーム名の重複や単位の欠落、認識不能といったエラーがないかインポートをテストすることが可能です。



インポート時に表示されるコンフィギュレーションウィンドウ。CSV列にて、ブラウザしているファイル内の列ヘッダーをマッピングすることが可能です。

CSV からのインポート、CSV へのエクスポートの詳細については、[Time Series Database トピック](#)をご覧ください。